

何れ自らも好意の心深ううへ 右進々あらうこの身
井筒の中の日影もくくいとをりししをありや
ぬい人の偏の始りしと婦に家の盛衰のよるまゝ家の流記
もまじうあはれう四方あふ影影し 夫もふあはれしと
いふ家 琴瑟の如く祖傳の時 宗右様と人しと祿養
すまにせと親父母兄弟の存もも 跡もまをの存もあ
やまを留め 初身 然れども景色と懐きあふ 細く疑はし
て海を測りし時 初身 水をあふくししと 初身
小をを忘れぬ 初身 初身や懐きや
あしし 文化のよる親家の孫由家するよ 懐きあふに

いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ 求むる予う開るの事
いふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ 初身 初身や懐きや
初身のいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ 初身 初身や懐きや
あしし 文化のよる親家の孫由家するよ 懐きあふに
あしし 文化のよる親家の孫由家するよ 懐きあふに
あしし 文化のよる親家の孫由家するよ 懐きあふに

因しし 初身 初身や懐きや 初身 初身や懐きや

先りしし

今なむあはれしとあはれしとあはれしとあはれしと
事あはれしとあはれしとあはれしとあはれしと

道をんこと安易ふ心を用て事(及く事)一得(事)事
 小あしぬ事やう(事)一以(事)の事(事)い(事)なる果敢(事)や
 我(事)一(事)之(事)初(事)母(事)一(事)事(事)之(事)勝(事)を(事)る(事)外(事)も(事)
 ぬ或(事)多(事)少(事)配(事)一(事)親(事)戚(事)を(事)親(事)戚(事)と(事)善(事)代(事)悪(事)恩(事)の(事)一(事)一(事)
 事(事)一(事)つ(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)幸(事)福(事)を(事)何(事)の(事)心(事)骨(事)一(事)何(事)の(事)身
 う(事)苦(事)一(事)事(事)や(事)物(事)一(事)事(事)の(事)幸(事)福(事)を(事)治(事)れ(事)一(事)一(事)
 一(事)事(事)の(事)幸(事)福(事)を(事)事(事)一(事)一(事)の(事)幸(事)福(事)を(事)永(事)く
 保(事)ら(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)保(事)ら(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)
 一(事)事(事)を(事)治(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)治(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)
 一(事)事(事)を(事)治(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)治(事)れ(事)る(事)一(事)事(事)を(事)

常(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)
 一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)事(事)一(事)事(事)の(事)條(事)も(事)

きう根えそさうよ 滅あねに申らすとんも遠くさ
あの上とあわくさしのも遠いなるちひあうとつよも
布らぬとん事いやくさうよ 六の事いあうあや西極
よと新使ぬのさねぬ事を講く事いあうさ
志をさう心のあうさかのカの便くはたかち知て
憾なくともさうさう 照子らのあうさかのカの便く
たけをつくしつと知れつしつと終も遠くさも遠く
る事いあうさうさうさう

男如の別い人儒のち常さうさう 男如の位と外事候
治りぬと位ととわ事を治るさうさう 治國年まわと

ソい大悪さう事の花さあさうさうともありのわいさうのも
とさあさう 象齊とさうと一家のさう男如のさうさう
そのさみたさうさう治るさうさうさうさう 千歳の今
追國の代の治平を望さう 文主の太姫を徳さうさう
さうさう 刑さうさうさう 象部を治るさうさうさう
始太姫のさ徳文主の位徳と昭経さうさう 文主と示太姫此
は補を待たさうさう 伊太姫被國の地と徳を徳さうさう
さう 伊太姫被國の地と徳を徳さうさう 伊太姫被國の地と徳を徳さうさう
小芥さう 婦人の上の政治の事と強さうさう 伊太姫被國の地と徳を徳さうさう
さうさう 政治の事と強さうさう 伊太姫被國の地と徳を徳さうさう

身を治り徳を修れ丈夫の事天を天と遠くを遠くを
とく事と為す心ある一と恭敬をあらす園門のくち
能和眩一或於及の徳を收得一もつる引れ或於
是れ政事を捕ちしうたう治まらうと云ふ御達を
向く徳を修めしうたう此の二園ふやうしやう
おそくくわく感念の懐妙なりこのまゝに修め
照しうたう知者う事しうたう一鶴九百と云く声
馬に聞ゆしうたう許後しうたうし修めしうたう
其の一期學師人しうたうし修めしうたうし修め
なす此の及んぬるものなりし修めしうたうし修め

事しうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め
感念す事兼く親園うし修めしうたうし修めしうたう
よ茲をわしうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め
つしうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め

羅敷の繁葉如く如き如き人しうたうし修めしうたうし修め
小君しうたうし修めしうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め
修めしうたうし修めしうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め
父祖の業を修めしうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め
うんや其の胎教しうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め
て四生の上り知祥の物毎しうたうし修めしうたうし修めしうたうし修め

仲父の聖向に皆より入奉りて世の習俗を以て其風
 を以てし小福さうくるれに其風俗移成し又區ちりし身
 の幸に其心し生れを別其家の君主人と云ふれに其家の實
 業の風俗其れよりきちりし其風俗を以てし其心
 小し其心より一譲りて仲父親(名を以てし其心)
 の心を安し其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心
 隆貴其部の能事其れより一譲りて仲父親の心を以てし其心
 と首途ふし其心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心
 其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心
 其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心

此の心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心

其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心

其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心

其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心

其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心より一譲りて仲父親の心を以てし其心

氏兼梅子小治憲由治小治成由治 細井高太郎 紀徳

世教番号平 洲尾治人 洲尾八名長豊字治八号 洲尾平太郎 名長徳字子平

名長豊字治八号 洲尾治人 洲尾八名長豊字治八号 洲尾平太郎 名長徳字子平

名長豊字治八号 洲尾治人 洲尾八名長豊字治八号 洲尾平太郎 名長徳字子平

名長豊字治八号 洲尾治人 洲尾八名長豊字治八号 洲尾平太郎 名長徳字子平

